

## 会議録

会議の名称	社会教育委員の会議（11月定例会）
開催日時	平成22年11月19日（金曜日）午後2時から午後4時15分
開催場所	保谷庁舎3階 第2会議室
出席者	委員：濱崎議長、松嶋副議長、岡村委員、小川委員、倉島委員、齋藤委員、白木委員、須永委員、本田委員、宮崎委員（五十音順） （欠席：稲葉委員、本領委員、山田委員） 事務局：神田係長、諸岡主事
議題	(1) 社会教育関係団体補助金について (2) 提言について (3) その他 1 社連協全体交流会（11月26日午前）への参加について 2 関東甲信越静社会教育研究大会（11月26日午後・11月27日午前）について 3 地域教育フォーラム（11月27日午後）への参加について
配布資料	1 平成22年度社会教育関係団体補助金交付確定額（案） 2 平成22年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会交流大会実施要項
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input checked="" type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>平成22年10月定例会議、臨時会の会議録を承認する。</p> <p>社会教育関係団体補助金について</p> <p>○事務局：</p> <p>今年度は2団体から補助金申請が出されているが、8月に事業を終了した混声合唱団コールフロイデから実績報告が出され、配布資料1のとおり補助金額を確定した。もう一つの団体の申請事業は1月実施のため、先に1団体の補助金を確定したい。内容は配布資料1「平成22年度社会教育関係団体補助金交付確定額（案）」のとおり。収入見込みのチケット売り上げが実績では低くなったため控除額が下がった。そのため、実績に基づく査定額が決定額より多くなったが、確定額は決定額を上回ることが出来ないため、決定額どおりの確定額となっている。</p> <p>○議長：</p> <p>実績報告を見てご意見ありますか。</p> <p>○委員：</p>	

演奏会の費用は会費の中から毎回積み立てをして財源を確保しているのではないか。招待券もたくさん用意しており、チケットを渡してもお金をもらっていないのではないか。

○委員：  
チケットが売れなかったのは想定外だったのか。

○事務局：  
実施前はある程度売上を見込んで計画をしていたと思う。

○委員：  
チケット代をもう少し安くしてはどうか。

○委員：  
参加者450名が招待というのがピンとこない。演劇に関していうと招待券は発行するがそのほとんどが知り合い、知人に売ってなんとか売れば成功という形で努力しているのに、ほんの数枚しか売れないのはどうなのかと思う。

○委員：  
補助金を出すのは問題ないが、内容的にもう少し工夫できないかと思う。

○事務局：  
入場者数が達成されない部分があったので事業評価シートにもコメント事項として記載してある。今回会議で出された意見を受けて、有料入場者の増員に向けた方策として、チケット代を工夫し一定程度収入を上げていくよう内容改善について指摘し、事業評価シートの整え直しをしたい。

○議長：  
確定額について、了承してよろしいか。

○全委員：  
異議なし。

## (2) 提言について

○議長：  
これまでの検討や活動に関して、わかった事とわからない事を各自調べてくるという事になっていたがいかがですか。

○委員：  
中原小学校の施設開放運営協議会に行った。若い、子育て中の40歳前後のお母さんたちががんばっている。運営協議会の会議が午後6時から7時ぐらいまで行なわれるので、夕飯の時間と重なってしまうようだ。中原小では1人の人への責任が重い。地域生涯学習事業で自分の家の連絡先を教えて外部にチラシを配っているので負担がかかっている。

る。電話だけでなくFAXをつけて欲しいという話を聞いた。

○委員：

自分が運営協議会を立ち上げた時、月1回の会議の時間は夜だった。夜やるのは不都合だと校長に言われて昼に変更になった。

○委員：

第4ブロック研修会で発表されたお二人はリーダーシップをとっている。その中で担い手がないことがでてきた。引き継いでくれる人がいないのが問題だと思うが、発表された2つは成功した事例だが、周りの環境はどうだったのか。しらうめネットワークは学校長の協力があり、けやき小はハード面が充実している。中原小とはずいぶん違い、同じ市の中なのに不公平ではないかと思う。何かやるにしてもFAXで対応できる設備がないと個人的負担が大きくなってくると思う。ひとりの人に負担がかかると後継者が育たないと思う。

○委員：

しらうめネットワークの場合は、地域にふれあいひろばの他に荒屋敷自治会という大きな組織がある。来年、新しくできた下保谷福祉会館で50周年式典を開く。第一小と荒屋敷自治会は非常に密接で秋の交通安全の時は荒屋敷自治会の役員の方が皆出てきてくれる。横の繋がり、連携がとれていてとても恵まれている地域である。

○委員：

市の中でも他の施設開放運営協議会が何をやっているのかわからないという事がある。今回発表した2人の方たちは経験が豊かで、参考になる話が聞けた。今回の研修会のように、発表の場を増やして、地域生涯学習事業に関わっている他の人たちにも参加してもらって発表してもらったらどうだろうか。はげみになるのではないか。

○委員：

気楽に情報交換ができる場を行政が作るのは難しいのか。

○事務局：

施設開放運営協議会の全体会議は年に2・3回行っている。前半は学校施設開放事業について、後半は地域生涯学習事業についての会議となっている。運営協議会の方からも困ったことなど、意見を出してもらっているが、その中で運営協議会同士の情報交換の時間も設けている。

○委員：

なかなか全体会議では話せないという声も聞く。

○委員：

東伏見小の場合、アウトドア体験ということで事業を実施したが、50人定員のところ100人ぐらい集まった。今後、PTA会長も地域生涯学習事業をやってもいいという話が出ていたので、この地域でも地域生涯学習事業へ取り組む兆しが見えてきたのではない

か。

○委員：

谷戸二小の学区域の地域の活動でいうと、北原、谷戸地区にある学校施設開放運営協議会もけっこう活動している。青少年育成会のけやき会というのがあり、谷戸二小と田無二中と谷戸幼稚園がタイアップして、地域の人たちに呼びかけて年に3回ほどの活動をしている。1つはクリーン活動、もう1つはハロウィン、もう1つは餅つき大会をやっている。もちつき大会では老人会が中心になってやっている。他の地域にも育成会はあると思うが交流とかあるのだろうか。

○委員：

栄町の育成会と第一小の育成会は交流がある。しらうめの会議は年4回ある。第1回目の会議の時に残りの3回の会議の日程を全部発表してくれるので、前もって時間を確保しやすい。

○議長：

青少年育成会は社会教育課の所管か。

○事務局：

児童青少年課です。ふれまちは社会福祉協議会の事業です。ふれまち、学校施設開放運営協議会、青少年育成会はどれも学校区を基盤とした地域組織である。

○委員：

今、火の用心とかが盛んで、そこからネットワークが広がる。地域を守ろうという意識の高い地域は活動が盛んである。

○委員：

地域の中でつながるための橋渡しをする担い手は、人柄や名人芸的などころもあるが、誰もがまねでき、使えるようなノウハウが何かあるのではないか。こうすれば横のつながりがうまくいくといった何かが見つけられるといい。

○議長：

これからは横のつながりができていないところをどうしていくかが課題だろう。

○委員：

横につなげるというテクニカルなことも大事な事だが、担い手となる大人の世代をみると、話せない大人、聴けない大人をどうしたらいいのかという問題もあるだろう。

○委員：

野球教室をやっている。毎年始まる前に各チームの指導者を集め会議を開催するが、今年は1つも質問が出なかった。反省会の時も出られない方はFAXで意見をくださいという、FAXは来るが会議のなかでは発言は出ないという状況だった。

○委員：

皆と違うことを言ったり、やってしまうと攻撃されたりするのが怖いのではないだろうか。

○議長：

今年度の委員研修会だが2、3月を予定している。提言についてのまとめに向けて学習したい研修会のテーマを決めていきたい。どのような内容の研修会がいいでしょうか。

○委員：

これまで後継者とか担い手と言った事を話し合ってきた。後継者とか担い手をテーマにした研修会はどうだろうか。第4ブロック研修会の発表者の方もおしゃっていたが今は後継者や担い手を育てるのが大切だと思う。

○委員：

地域のいろいろな活動である育成会やふれまち、学校施設開放運営協議会などの横の連携をどう広げていくかといったテーマはどうだろうか。

○事務局：

出された2つのテーマも含め事務局のほうでも、テーマと講師について検討する。日程は、講師の予定もあるが、2月の定例日に設定するかその他の金曜日にしたいと考えている。

○議長：

では研修会については次回また検討するので、講師の候補やテーマをそれぞれまた考えてきてほしい。

○事務局：

提言のテーマである地域づくりといっても漠然としているが、地域の活動がコアになっているのではないかということで、第4ブロックの研修会で地域活動の事例について検討した。その中で担い手というキーワードに焦点をあて、各自で地域活動をやっている人から聞き取りをしてもらい、その事例を会議の中で発表してもらった。次の段階ではそういった各自で持ち寄った地域の状況を記録にし、すり合わせていくと担い手をめぐる課題がわかってくるのではないだろうか。次回までにお互いに共有できる情報としてまとめてきたらどうだろうか。1月には課題を洗い出しながら、研修会を2月に実施し、提言に向けたまとめに入っていくという流れになると思う。各自また、調べたいことがある場合には事務局に相談してもらえれば対応します。

○委員：

担い手の人たちにヒアリングをしたいと考えている。どういうところに行き詰まりがあるのか、抱えている課題は何か。これからの担い手に今活動している人と同じ事を求めるのは無理なのかなど、何が問題なのか探っていきたい。

○議長：

引き続き各自それぞれ調べてくることとし、次回文章にできる方は文章にきてきてください。

(3) その他

- 1 社連協全体交流会（11月26日午前）への参加について
- 2 関東甲信越静社会教育研究大会（11月26日午後・11月27日午前）について
- 3 地域教育フォーラム（11月27日午後）への参加について

○議長：

今後の研修会への参加について事務局より報告をお願いします。

○事務局：

来週の11月26日（金曜日）と27日（土曜日）にいくつかの研修会が実施される。26日午前に社連協全体交流会、午後から関東甲信越静社会教育研究大会の全体会、27日午前が関東甲信越静社会教育研究大会の分科会、午後が東京都主催の社教委員対象の研修会となっている。交流大会の内容は、配布資料2「平成22年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会交流大会実施要項」のとおり。事務局からは、神田と山中が随行予定。2日間の研修となりますが、参加される方はよろしくをお願いします。

○議長：

以上で本日の社会教育委員の会議（11月定例会）は終了する。

次回会議

平成22年12月17日（金曜日）午後2時から